

わが

ひと・地域・産業がきらめく まちをめざして

平地、台地、山地が
バランスよく形成

平川市は、青森県南部、津軽平野の南東部に位置した都市で、その津軽平野の一部で市街地が形成されています。水田地帯として利用されている「平地」は、肥沃な沖積土で新市名の由来となった平川とその支流である浅瀬石川の2



ブランド化に向けた取り組みが進む「津軽の桃」

つの川の恵みを受け、緩やかな傾斜地が広がる「台地」では主に青森県の代名詞でもあるリンゴの栽培が盛んに行われています。また、市の総面積において山林が約7割を占め、櫛ヶ峰(標高1516m)を中心とした南八甲田連峰の「山地」には、湿原地もあり、その美しい自然環境は十和田八幡平国立公園に指定されています。旧石器時代・縄文時代から近世にわたる遺跡が各所にあり、発掘調査の結果、この地域における稲作文化はおよそ2000年前より今日に伝えられており、古来より肥沃な穀倉地帯として栄え、発展してきた経緯があります。度重なる町村合併を繰り返し、平成の大合併に伴い平成18年1月1日に「平賀町」「尾上町」「碓ヶ関村」の2町1村が新設合併し、青森

県10番目の市として誕生しました。県10番目の市として誕生しました。**青森のリンゴ、津軽の桃!?** 農業を基幹産業とする本市の主要農産物はリンゴです。「青森といえはリンゴ」と言われるくらい有名な果物ですが、本市は県内でも有数の出荷量を誇るとともに、寒暖差の激しい丘陵地帯で栽培された本市産のリンゴは青森県りんご品評会においても例年、最高賞の農林水産大臣賞をはじめ数多くの賞を受賞するなど、品質面において高い評価を受けています。また、近年ではリンゴ栽培の技術が転用可能でリンゴの主力品種の「ふじ」と収穫期が重ならない果実として桃の栽培が急速に拡大してきており、農協などで品質の均一化を図り「津軽の桃」としてのブランド化への取り組みが進ん

でいます。青森県はリンゴのイメージが強いので、「青森で桃?」といった声も聞かれますが、この桃に関しては主産地の販売が終了した端境期に出荷できることから消費地市場からの引き合いも大変強くなっています。また、味の評判も良く、ふるさと納税の返礼品として用意した限定セットは早々に品切れとなりました。リンゴと桃を使ったスイーツや加工品も増えてきており、生産者の収入アップにつながるものと大いに期待するものです。**夏のねぶた、冬のねぶた!?** 青森県の夏の風物詩といえねぶた祭りが有名ですが、青森市の「青森ねぶた」やお隣り弘前市の「弘前ねぶた」、五所川原市の「五所川原立佞武多」と地域によって形や囃子がさまざまです。本市の「平川ねぶた」も毎年8月初旬にまつりが開催され、30台以上のねぶたが出陣するさまは北国の短い夏を大いに盛り上げます。「平川

ねぶた」は団体ごとにテンポの違いがある囃子と、それぞれの団体が考えた鮮やかな衣装に趣向を凝らした踊りが付くなど、ねぶた以外でも楽しめるところに特徴があります。そしてねぶたのクライマックスを飾るのが「世界一の扇ねぶた」です。平均的な扇ねぶたの高さは6〜8mですが、このねぶたは11mという世界一の高さを誇っており、その迫力ある姿は沿道の観客から感嘆の声援が上がるなど、ねぶたを運行する人、観る人を魅了していきます。

このような夏の風物詩であるねぶたまつりですが、本市においては夏に加え真冬の12月にも「平川ねぶたまつり冬の陣」と銘打って東北新幹線全線開業の平成22年から開催してきました。特に平成27



世界一の「扇ねぶた」

築・購入の費用負担を軽減するなど、子育てしやすい環境を整えてきました。また、建設を進めていた県内初の木質バイオマス発

年の大みそかには「年越しねぶた」を運行しました。この大みそかのねぶた運行は実に15年ぶりの開催で、いてつくような寒さの中での運行でしたが、多くの観客が会場を訪れ、勇壮な武者絵と威勢のいい囃子を堪能するとともに、年越しカウントダウンと花火により新たな年の幕開けと本市の飛躍を誓いました。

飛躍ある次代に向けて

今、本市を含む全国の自治体は少子高齢化や人口減少に直面しています。本市ではこれらの打開に向け、「子育てするなら平川市」と言われるまちづくりを目標に、「子育て支援課」の設置、第二子以降の保育料無料化、未就学児の医療費無料化、子育て世帯の住宅新

電所が、平成27年12月に売電を開始しました。この事業により、山林の間伐材を計画的に伐採することで本市の森林整備が進むとともに、これまで廃棄・焼却してきたリンゴ剪定枝も農家から買い取り、エネルギー燃料として活用するようになりました。

さらに、発電に伴う排熱などの有効利用に向け、現在、「バイオマス産業都市構想」を取りまとめ中であり、今後とも、産業振興

プロフィール

- ◆ 面積 346.01km²
- ◆ 人口 3万2408人
- ◆ 世帯数 1万1754世帯

〔将来都市像〕時と水ゆったり流れる平川市

〔まちの特徴〕歴史と文化が息づく風光明媚な農村風景の広がるまち

〔市町村合併〕平成18年1月1日、旧平賀町、旧尾上町及び旧碓ヶ関村



平川市長
長尾忠行



〔特産品〕リンゴ、桃、米、高原野菜、自然薯

〔観光〕国指定名勝「盛美園」、猿賀神社、白岩森林公園、志賀坊森林公園、いかりがせき「津軽関の庄」

〔イベント〕平川ねぶたまつり、ひらか和！入浴ラリー、地産地消まつり「ひらかわフェスタ」、平川市だけのコマラン大会

と雇用対策を視野に入れた、エネルギー循環型のまちづくりを推進していきたいと考えています。

まだ市制施行後10年しか経っていない若い自治体で、人口減少問題を含め数々の課題・問題がありますが、これまでの歩みを止めることなく着実に前進するとともに、そこに住む人々の笑顔を絶やさない風景を思い描きながら次代に向けて何事にも大いに挑戦してまいりたいと思います。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

ともに築き 幸せ実感都市 未来へつなぐ

住むならやっぱり下野市

平成18年1月に南河内町、石橋町、国分寺町の合併により誕生した下野市は、本年10周年という一つの節目を迎えました。

JR宇都宮線の自治医大駅を中心にニュータウンによる新市街地が広がり、その周辺部の田園地帯とともに下野市を形成しています。

また、平坦な自然災害の少なく、安全・安心な暮らしが形成されています。

近年は北関東自動車道の開通により、交通の利便性が増しています。また、小金井駅と自治医大駅、石橋駅の3つの駅を有するJR宇都宮線で、都心まで快速などで約70分の通勤圏にあり、特に小金井駅は始発が多いことから、「座って通勤できる」ベッドタウンと

なっています。

また、本年度、JR自治医大駅西口に新庁舎が完成しました。新たな防災拠点となるとともに、行政機能の集約した、市の新しいシンボルとして、市役所の文字どおり「市民の役に立つ所」となるよう活用を図ってまいります。

「医・食・住のまち しもつけ

本市は関東平野の高低差が少ない地形で、面積が約75㎢と県内市最小で市内どこへでも30分程度で行くことができる、コンパクトシティです。

高度医療集積拠点の自治医科大学附属病院をはじめ、地域の医療機関や地域保健福祉拠点がバランスよく配置され、人口当たりの医師数、病院・診療所数、病床数がい

ずれも県内平均を大きく上回り、全国でもトップクラスで医療環境が充実しています。小児科や産婦人科医も多く、安心して出産・子育てができるまちです。

下野ブランド

生産量日本一を誇る「かんびょう」は国内産の約52%が本市産のかんびょうです。カルシウム・カリウム・リン・鉄分などが多く含まれ、



生産量日本一を誇る「かんびょう」

食物繊維も豊富なことから健康食品としても注目されています。

かんびょうを利用した加工品や地酒、土産品のほか、国指定史跡の下野国分寺・国分尼寺跡、下野薬師寺跡や小金井一里塚などの地域資源をブランド化し、シティセールスを行っています。

こうしたブランド化への取り組み以外でも、市内には元来、デザートやカフェ、パン屋などが多く、スイーツ好きの人気スポットとなっています。

新しいまちの顔 「道の駅しもつけ」

平成23年に新4号国道沿いにオープンした「道の駅しもつけ」は、おかげさまで年商16億を売り上げ、関東でも人気の道の駅となりました。地元の新鮮野菜や特産物、お弁当・お惣菜、パンやスイーツ、お菓子など、何度来ても飽きのこないラインナップでお客様をお迎えしています。レストランやイートインスペースも充



日本三戒壇の一つ「下野薬師寺」跡の復元回廊(国指定史跡)

が建立され、古代の下野国の中心地として栄えました。江戸時代には五街道の一つである日光街道の宿場町(小金井宿・石橋宿)を軸として繁栄し、明治以降の国鉄整備に引き継がれ、物流の要衝

実しており、家族連れのお客さまにも大人気です。

また、4月は天平の丘公園で「天平の花まつり」が開催されます。約450本の八重桜は一見の価値があります。1日で道の駅と八重桜の花見のどちらも楽しむことができますので、ぜひお越しください。

歴史・文化薫るまち しもつけ

本市は旧石器時代から先人が生活した痕跡があり、6〜7世紀の古墳時代には有力な豪族が現れ、大型の古墳が築造されました。武天皇の白鳳時代には日本三戒壇の一つである下野薬師寺が建立されたほか、8世紀には聖武天皇の詔により下野国分寺・国分尼寺

として発展してきました。

最近では、日本初の出土例となる「機織形埴輪」が、国指定史跡となつている下野国分寺跡に隣接する甲塚古墳から出土し、全国の博物館などに展示されました。3月中旬には全国の旅を終え、しもつけ風土記の丘資料館に展示されますので、ぜひ足を運びください。

子ほめ条例発祥の地

本市は「子ほめ条例」発祥の地です。昭和60年、旧国分寺町で制定されて以来、毎年市内全小学校6年生全員の児童に市長が銅メダルを掛けています。素直に喜ぶ子、緊張して手に汗握る子どもなどさまざまなですが、卒業生の声を聞くことや記憶に残る出来事のようにです。

銅メダルを渡すのは「これから自分の力で銀、金と変えていってほしい」という思いからです。褒められる喜びを知らなければ、褒めることができませぬ。褒められる喜びは必ず将来、成長する糧になると信じ、表彰を続けています。

おわりに

本市も地方創生や人口減少社会

を見据えた、さまざまな取り組みを行っています。

全国の自治体でもいち早くパーソナルロボット「ペッパー」を導入し、「下野市シティプロモーション特命課長」に任命しました。ユニークな会話と、かわいらしい姿のペッパーは、どのイベント会場でも目を引き、報道機関などの注目も高く、市のPR活動の先陣を切っています。

また、東京圏からの転居者で住宅を取得した方への、家庭菜園の

プレゼントや、モニターツアーの開催、企業誘致奨励金制度の創設、子育て支援事業の充実など、市の魅力を高め人や企業に選ばれ

るまちづくりを行っています。

いずれの事業も行政の力だけでは目標を達成できません。「下野市自治基本条例」の基本理念である「市民が主役の協同によるまちづくり」を念頭に、市民と本市の将来ビジョンを共有しながら、さらなるステップアップを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 74・59 km²
- ◆ 人口 6万99人
- ◆ 世帯数 2万2912世帯

〔将来都市像〕ともに築き 未来へつなぐ 幸せ実感都市

〔まちの特徴〕栃木県の中南部に位置し、都心から約85km圏にある、平坦で安定した自然災害が少ない地域



下野市長
広瀬寿雄



〔市町村合併〕平成18年1月10日、河内町、石橋町、国分寺町が合併
〔特産品〕かんびょう、ごぼう、きゅうり、かぶ、玉ねぎ、ちぢみほうれんそう、下野のBナス
〔イベント〕天平の花まつり、しもつけかんびょうまつり、天平の芋煮会、グリムの森イルミネーション

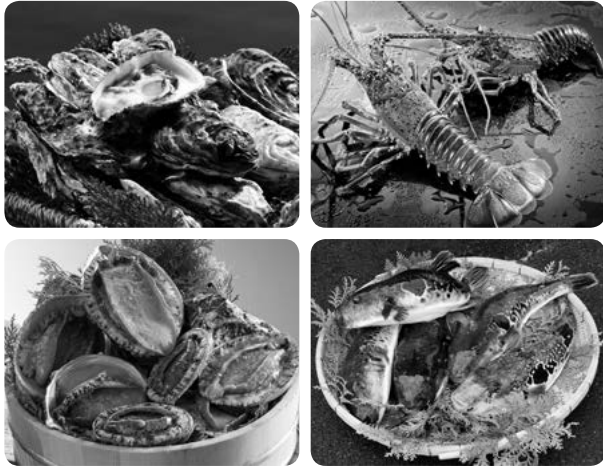
※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

住む人支え 豊かな里と海のまち

はじめに

志摩市は全域が伊勢志摩国立公園に含まれ、美しいリアス海岸を誇る真珠のふるさと「英虞湾」と、山から流れ込む栄養で育てられた三重ブランド認定の的矢かきで有



三重ブランド認定品「的矢かき」「伊勢えび」「あわび」「あのりふぐ」

来る人迎える

名な「的矢湾」を有するまちです。そのため、伊勢えびやあわび、あのりふぐなどの魚介類をはじめとした豊かな里海がはぐくんだ食材の宝庫であり、また海女さんによる素潜り漁が今でも盛んな古くから「御食つ国」として知られた地域です。

新しい里海創生による まちづくり

平成22年5月号の本欄で紹介させていただきましたが、本市は、人と自然が共生する「新しい里海創生によるまちづくり」として、全国で初となる沿岸域の総合管理計画でもある「志摩市里海創生基本計画」を策定し、さまざまな関係者が連携しながらまちづくりを進めてきました。

このまちづくりは本年4月から

第2次計画期間となりますが、これまで、「新しい里海のまち宣言」を行い、本市の地域資源の素晴らしさを改めて見直すとともに、食や景観以外にも海洋スポーツをはじめ、豊かな自然環境をフィールドとしたさまざまなスポーツイベントなどが開催されるようになるなど、地域の魅力を生かしたまちの活性化が進みま

した。平成27年7月には、「海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣賞)」を自治体として初めて受賞したほか、平成25年には「SATOURMI」をテーマとする東アジアの自治体合を市内で開催したり、平成27年11月にはベトナムで開催された東アジア海洋会議で、アジアの自治体代表としてお話をさせてもらう機会をいただくなど、本市のまちづくりは国

内外からますます注目されてきています。

そして本年5月開催の伊勢志摩サミットでは、主要国の首脳や関係者の皆さまに、志摩の文化に触れていただき、里海の食材を堪能していただいて、本市に対する関心や理解がさらに広まることを期待しております。

伊勢志摩サミットを起爆剤に

2016年伊勢志摩サミットの開催地として選ばれた本市の賢島は、英虞湾に浮かぶ島のひとつです。大小いくつもの島々と入江が入り組んだ英虞湾の風光明媚な景観は「日本の原風景ともいえる美しさがある」と安倍首相からおっしゃっていただきました。

その美しい景観と志摩ならではの料理に加えて、市民や民間事業者が繰り広げる「おもてなしイベント」や「志摩市らしい景観形成」などポストサミットも見据えた観光客をお迎えする準備で本市は大いに活気づいています。

また、本年は伊勢志摩サミットに引き続いて「伊勢志摩国立公園70周年」の記念すべき年でもあり、国立公園の魅力押し出したインバウンドをターゲットとした観光振興に取り組んでおります。

「スポーツ観光都市」志摩

もうひとつの観光振興として、四季折々に感じる魅力的な風景や豊かな食を体感しながら、気軽に参加できるサイクリングやウォーキングなどのスポーツイベントを開催しており、全国各地から多くの方々に参加いただいています。



伊勢志摩・里海トライアスロン大会

さらにトライアスロンやビーチバレーボールの大会などには、日本を代表するアスリートが集い、レベルの高い熱戦が繰り広げられています。

本市は温暖な気候であることから、年間を通じてスポーツを楽しむことができ、一般社団法人志摩スポーツコミッションを中心に関係各機関や市民などが協働し、集客力拡大、内容の充実や強化、新たな大会の誘致を目指しています。さらに宿泊施設や温泉などを利用した合宿の誘致、オリンピッククキャンブ誘致などにもつなげていく総合的な取り組みも推進しています。

このようなスポーツイベントや合宿などを通じた観光施策を展開し、本市の観光振興の一翼を担うスポーツを通じたまちづくりを促進するため、本年3月に「スポーツ観光都市」を宣言いたしました。

全国名水サミット

伊勢神宮への参宮古道にある「恵利原の水穴(天の岩戸)」から湧出する枯れたことのない清い水は、環境省「名水百選」に選定されており、天照大神が隠れ住まわ

れたという天の岩戸の伝説とともに、古くから地域内外の人々の信仰を集めています。伊勢神宮林などの樹木に覆われたその空間は、透き通るように清らかな空気に満ちており、水穴からあふれる冷たい水と神々しい木立の清涼感により、極上のリラクゼーションを味わうことができます。

本年10月には、全国の名水を有

プロフィール

- ◆ 面積 178.94 km²
- ◆ 人口 5万2846人
- ◆ 世帯数 2万2868世帯

〔将来都市像〕住む人支え 来る人迎える豊かな里と海のみち

〔まちの特徴〕市全域が伊勢志摩国立公園に含まれ、四季を通じ温暖な気候により豊富な海の幸、山の幸に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成16年10月1日、旧志摩郡5町(浜島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町)が合併し、誕生



志摩市長
大口秀和



する自治体が一堂に会する「名水サミットin志摩」が本市で開催されます。名水サミットでは、森々里々川々海のつながりの大切さを、市民をはじめとする多くの皆さまと共有し、本市の産業や快適な生活環境が豊かな自然の恵みの上に成り立っているとの認識を深める機会としていただいています。

〔特産品〕伊勢えび、的矢かき、あおりぶぐ、真珠、あわび、さざえ、あおさ、桧扇貝、てこね寿司

〔観光〕横山展望台、英虞湾遊覧船、志摩スペイン村、志摩自然学校、海女小屋体験施設「さとうみ庵」、伊雑宮〔イベント〕伊勢えび祭、安乗人形芝居、わらし祭、伊雑宮御田植祭、潮かけ祭り、伊勢志摩ソーデーウォーク

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

笑顔あふれるまち 都城市を 目指して

はじめに

都城市は、宮崎県の南西部に位置し、東に鰐塚山系、北西に霊峰霧島を仰ぐ周囲を山々に囲まれた自然豊かな盆地にあり、南西は鹿児島県と接しています。歴史上では「島津家発祥の地」といわれ、都城島津家の下、南九州東部ににおける政治文化の中心、交通の要衝として栄えてきました。

基幹産業は農林畜産業で、肉用牛、豚、ブロイラーは市町村別で日本一（平成18年農林水産省統計）を誇ります。また、焼酎の売上高3年連続日本一となった霧島酒造株式会社もあり、市のPRにも大きな役割を果たしていただいています。

都城市が持つ3つの宝

本市には「農林畜産業」「地の利」

「次世代を担う子どもたち」という3つの宝があります。

第1の宝「農林畜産業」については、6次産業化による新商品の開発や全国和牛能力共進会での日本一を目指すことで、生産者と関係者が一丸となった取り組みを進めることにより、基幹産業である農林畜産業の振興を図っています。

第2の宝「地の利」については、本市が宮崎・鹿児島の間空港にそれぞれ約1時間アクセスできる位置にある中で、さらに、本市と国際バルク戦略港湾志布志港を結ぶ「都城志布志道路」の早期全線開通に向けた整備が着々と進んでいること、また、九州縦貫自動車道宮崎線山之口スマートインターチェンジが本年秋に供用開始になることなどから、本市の工業団地

への企業立地が進んでおり、南九州の「物流拠点都市」としての役割が高まりつつあります。

また、南海トラフなどの巨大地震が発生した場合に備え、県沿岸部などが被災した場合に、その地域を支援する「後方支援拠点都市」としての取り組みも強化しています。

第3の宝「次世代を担う子どもたち」については、語学力や豊かな国際感覚を身に付けてもらうためのALT（外国語指導助手）の増員や、児童の読書環境向上のための小学校図書館サポーターの増員を図るとともに、小中学校の耐震補強や図書室に空調設備を設置して教育環境を整備するなど、地域の宝であり、地域発展の礎となる子どもたちの育成に力を入れています。

都城市をこれまで以上に 対外的にPR

都城市をより多くの方に知っていただくことは、本市がさまざまな政策を進めていく上での重要な基盤の一つであると考えており、本市ではPR事業を政策の柱の一つに掲げて取り組みを強化しています。では、何をもちつて本市をPRしていくか、すなわち、都城市と言えはという「つかみ」を考えたとき、やはり「日本一の肉と焼酎である」という結論に至り、「肉と焼酎のふるさと・都城」を全国の人に知っていただくために、戦略的かつ計画的にPR事業に取り組んでいます。

また、本市には、芋焼酎ブームの火付け役となった「黒霧島」を製造している霧島酒造株式会社があり、全国的に知名度のある「黒霧島」と「都城」を結びつけることで本市のPRを図るといふ、行政が民間に乘る新たな形のPRも積極的に進めています。

ふるさと納税日本一とその効果

また、本市のPRツールの一つとして、平成26年10月にふるさと納税を大幅にリニューアルし、寄付者に贈るお礼の品を「日本一の肉と焼酎」に特化してスタートしたところ、平成27年1月から12月までの1年間のふるさと納税実績において、寄付額・寄付件数ともに市町村別で日本一となり、さらに多くのメディアでも取り上げていただいたことにより、結果として「肉と焼酎のふるさと・都城」を全国にPRすることができました。

また、ふるさと納税は、本市の対外的なPRのみならず、返礼品を地元から購入することによる地場産業の活性化、自主財源の確保、さらには、品質管理や顧客満



ふるさと納税「日本一の肉と焼酎」

足度といった、これまでに市役所にはなかった新しい感覚が生まれたことにより、職員の意識改革にもつながるなど、まさに「一石四鳥」の効果があると考えています。

組織の活性化と職員の意識改革

たとえ立派な政策を立案しても、実際にそれを実行していく市役所組織と市職員がしっかりとこななければ、そうした政策も「絵に描いた餅」になってしまいます。従って、本市をより発展させるためには、より良い政策の立案とともに、組織の活性化、職員の意識改革が必要であると考え、さまざまに取り組みを進めています。

まず、組織の活性化としては、国・県との人事交流や民間企業からの職員派遣などにより、市役所に「外の空気」を積極的に取り入れて活性化を図ろうとしています。

また、職員の意識改革としては、部課長による早朝あいさつ運動、新人職員の消防団入団、10年目職員の自衛隊研修などを実施し、人として当たり前のことができる「人間力」の育成に取り組んでいます。また、仕事に対する心

構えとして、「チャレンジ精神」「努力と謙虚さ」といったことも機会あるごとに伝えていきます。今後とも、政策立案とともに組織の活性化と職員の意識改革にも積極的に取り組んでいきます。

結びに

本市は、本年1月に新市誕生10周年を迎えました。本年度も、こ

れまでと同様に、3つの宝を輝かせるための施策をより一層進めるとともに、本市を対外的にPRする取り組みもさらに推し進めます。また、新たに「まち・ひと・しごと創生」総合戦略に基づいた各種施策に積極的に取り組み、市民の笑顔あふれるまち「スマイルシティ都城」を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 653・36 km²
- ◆ 人口 16万8369人
- ◆ 世帯数 7万8135世帯

〔将来都市像〕市民の願いがかなう南九州のリーディングシティ

〔まちの特徴〕宮崎・鹿児島県境にあり、約25万人の経済圏の中心に位置する自然豊かなまち

〔市町村合併〕平成18年1月1日、都城市、山之口町、高城町、山田町、高崎町の1市4町が対等合併

〔特産品〕焼酎、牛肉、豚肉、鶏肉、茶、



都城市長 池田宜永



らっきょう、ごぼう、さといも、大町、木刀など

〔観光〕関之尾滝、母智丘公園、高千穂牧場、都城島津邸、観音池公園、一堂ヶ丘公園、たちばな天文台など

〔イベント〕焼肉カーニバル、都城もちお桜まつり、さくらフェスタ高城、都城盆地祭り、都城六月灯おかげ祭り、人形浄瑠璃、山之口弥五郎どん祭り、山田のかかし村まつり、高崎夏まつりなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。